

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： コンテンツ生成の循環系を軸とした次世代音声技術基盤の確立

2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加期間終了時点）：

研究代表者

徳田 恵一（名古屋工業大学大学院工学研究科 教授）

主たる共同研究者

山本 大介（名古屋工業大学大学院工学研究科 准教授）

Steve Renals (The University of Edinburgh, The Centre for Speech Technology Research Professor)

山岸 順一（国立情報学研究所コンテンツ科学研究系 准教授）

3. 事後評価結果

○評点：

|         |
|---------|
| A 優れている |
|---------|

○総合評価コメント：

最新の音声技術を活用してユーザが創意工夫により豊かなコンテンツを制作し、コミュニティで循環できるようにすることでユーザ生成型音声対話コンテンツの多様な応用・展開を可能にする情報基盤の構築に取り組んだ。

HMM 音声合成ツールキット (HTS)、HTS をベースに構築された日本語テキスト音声合成システム Open JTalk などの音声技術に関連したソフトウェア群をベースに、物理演算を含む 3D-CG によるエージェント表現をリアルタイムに描画可能なグラフィック表示部、有限状態トランスデューサに基づくインタラクション記述部を新たに実装し、密結合することで、音声インタラクションシステム構築ツールキット MMDAgent を開発し、オープンソースのフリーソフトウェアとして公開した。さらに、一般ユーザが作成した音声対話コンテンツの部品化・共有化を促進するための音声対話コンテンツ共有サービス MMDAgent SHARE の開発、MMDAgent に関する情報共有の場とするためのユーザミーティング MMDAgent DAY! の開催、MMDAgent とマニュアル、コンテンツ制作支援ツール、講習会用のスライド、魅力ある音声対話システムを創作するための設計指針をパッケージ化したエンサイクロペディア MMDAgent を開発し公開した。公開した 7 件のオープンソースソフトウェアは CREST 開始の 2011 年 10 月から 2016 年 3 月までの間に合計約 78 万回ダウンロードされた。学術的な成果も十分得られ、複数の公共空間での長期にわたる実証実験が実施され、国内外の研究者や産業界との連携のネットワークも作られるなど、当初の目標が達成されたと認められる。

現在世界で急速に進んでいる音声メディア技術をけん引する技術集団としての今後の発展を期待する。